

No.104 2020.6.1

〒421-0522
 静岡県牧之原市相良 240-1
 (児童発達支援・放課後等
 デイサービス)
 つくしの家
 (生活介護事業所)
 つくしホーム
 ☎ 0548-52-2225
 事務局 52-0825
 F A X 52-1156
 e-mail:tsukushihome@
 aioros.ocn.ne.jp

つくしの家だより

HP アドレス <http://ichiyokai.sakura.ne.jp/>

まねしてみると… 栗林 均

ホールの畳のコーナーの上に、子ども達が製作の時間に作ったこいのぼりが飾られました。「えんてい(園庭)にいつてきまうす!」にじ組の子ども達のにぎやかな声が玄関から聞こえてきました。

以前、こんな話を聞いたことがあります。ある保育園での公開保育のお話でした。他の園の先生達がたくさん見学に来ます。その先生は、砂場遊びをテーマにいろいろ考えて準備をしました。そして当日がやってきました。砂に水を混ぜて固めて山を作り、トンネルを掘って、山のまわりに川を作り、考えて準備してきたような遊びが子ども達と展開されていきました。充分遊べた頃、見学されていた皆さんが引き上げはじめました。先生は満足して、子ども



達に「楽しかったね!」と声をかけようとした。でもその時、子ども達から出た言葉を聞いて先生は、全身の力が抜けてしまったとのこと。子ども達は先生にこう言ったそうです。「せんせい、もうあそんでいい?」…と。

新聞の「子育て」欄にはこんな文章もありました。『どうも大人は教えたがりのようで「〇〇の教え方を教えてほしい」と相談されることがあります。「バイバイのまねを教えてください」が、全然やらないんです。「スプーンやフォークの使い方はどう教えたらいんですか」とか。うーん。それって教えるものかなあ? バイバイなんかは他の人がやっているので見る機会が多いし、偶然手を振る動作をしたら周りの大人が喜んで、また振ったら喜んで、そんなやりとりの中で身に付いていくこと。離乳食も、いつもお母さんと一対一で向き合って食べてたら、他の人が食べるのを見る機会がない。食卓を囲んで大人がおいしそうに上手に食べている姿を見て「やってみたいなあ」と思

ってフォークを手にする。そ

んなのが自然です。ハイハイできない子が、ハイハイしている子と遊んだ数日後にやり始めたなんてこともよく耳にします。子ども達は、まねしたがりなんです。「学ぶは真似(まね)ぶ」。子ども達を見ていると、本当にこの言葉がぴったりだなぁと思います。まねしてうちに身に付いていく。家族や兄弟が多い子や、小さな頃から保育園に行っている子に生活の力が付いている理由の一つは、たくさんモデルがあり、たくさん「やってみよう」があるから…』こんな文章でした。

新型コロナウイルスの感染がなかなか収まらず、毎年当たり前のように行われていたいくつもの行事が縮小となったり中止されたり、外出や人との接触の制限など、これまで経験したことのない状況が続いています。日々の生活はもちろん、どこか気持ちも落ち着かない一年の始まりでした。子ども達には早くこんなことが出来るようになってほしい、こんな姿になってほしいと願ってしまいがちですが、子ども達がまねしたくなるような、心がワクワクするような時間をみんなで作ってあげたいな…、そんなことを思いました。見上げると、梅雨入前のほつとすするような青空が広がっていました。一日も早い感染の終息と、当たり前のような毎日が戻りますように…。(一羊会理事長・つくしの家園長)

つくしホームの新しい

仲間、そして旅立ち

増田 隆

新緑が萌える春、いつもなら真新しいランドセルを背負ったかわいらしい一年生や新学期・年度を迎えた人たちの姿がたくさん見られる時期ですが、今年に通学路や道路を歩く人さえまばらです。

緊急事態宣言という未曾有の状況となるのは、誰も想像できなかったでしょう。新型コロナウイルス感染症が広がり、世界中がその流行に飲み込まれてしまいました。感染された方はもちろんですが、その治療や看護にあたっていらつしやる医療従事者の方々は、休息もままならない最前線で働いてくれています。その方々に心から感謝し、無事を祈りたいと思います。いつか必ず終息する時が来ることを信じて、利用者さんの命を守る事を最優先に考えて日々を過ごしてゆきたいと思えます。

つくしホームは、今年度二十五名の利用者さんでスタートしました。

四月より吉田特別支援学校高等部を卒業した尾崎光紀（おぎき こうき）さんが新しく通い始めました。光紀さんはつくしの家親子教室からつく

しを利用して始め、つくしの家を卒園して支援学校に入学しました。在学時からつくしホームでの夏季学童クラブを利用して来ていたせいで、ホームの利用者さん達にもすっかり顔なじみです。いつも活発で、散歩やドライブ等が好きな活動的な面があり、タブレットやラジオ放送にも関心がある好青年です。普段は物静かでも、楽しい時には大きな声で笑う笑顔が印象的です。少しずつでもつくしホームに慣れて、その笑顔をいっぱい見せてくださいね。



私の手元には、色あせた一枚の原稿用紙があります。それは今から数十年も前に矢部紀代美さんのお母さんが夏休みの様子を綴った手紙です。

B四用紙にびっしりとしたためられた内容は、夏休みに紀代美さんが過ごしたたくさんのお出来事やその様子が事細かに記され、愛情のこもった文章で、つくしの家や職員に対する感謝の気持ちが書かれていました。つくしの家のはじまった昭和四十四年の四月十日、矢部紀代美さんは一番最初に園児として入園しました。それから昭和、平成、令和と五十年以上もつくしに通い続けてくれました。相良保育園に入園後、なかなかじっとしていられなかったり、お友達と上手に遊べないことが続きました。そんな時、当時の相良保育園長の故宮島先生の、障害を持った子ども達でも通うことが出来る場所を作りましょう、という思いを共に、設立に向けた準備が始まりました。紀代美さんのお母さんや、他の子ども達の保護者の方々と一緒に、町内を一軒一軒回りながら、障害を持つ子どもたちへの理解を訴えたそうです。コツコツといろんな努力しながら、ようやくつくしの家が出来ました。つくしホームと紀代美さんは通い続けてくれました。幼少の頃は活発で、とても行動的だったと伺っています。

つくしホームでは、音楽や装飾品が好きで、いつも物静かにたたずんでいます。



周りの人の話や表情をよく聞いたり、見たりしながら時折声を出して笑ったり、大きな声で返事をしてくれます。細かな作業に取り組んだり、いろんなジャンルの音楽に耳を傾けています。体調を崩して入院したこともありました。すぐに退院してきて、皆を驚かせました。毎日歌をうたいながら職員と一緒にモップ掛けをしてくれました。その紀代美さんは、先月、同じ市内にある入所施設に移りました。昔から「ぎーちゃん」と呼ばれ、誰からも好かれる素敵な女性で、そこにいるのが当たり前のような存在でした。そんな紀代美さんがここを離れるのはとても寂しいですが、施設では穏やかに、表情も豊かに過ごしていると聞きました。つくしのレジエント、紀代美さんの新しい人生の始まりを、心から祝いたいと思います。



紀代美さんとほぼ同年代の村松紀由（もとよし）さんも、先月別のグループホームに転居しました。紀由さんは昭和五十九年から三十年以上第二こづつみ作業所に通い、平成二十二年からこづつみ寮に入居しました。つくしホームには、平成二十六年十二月から約六年間通ってくれました。誰からも好かれ、利用者さんからは「もっちゃん」と呼ばれています。塗り絵や細かな作業が好きで、名前もとてもきれいに書いてくれます。松田聖子さんの大ファンで、寮

でもつくしホームでも、自由時間には聖子さんの歌や動画をうっとりとした表情で鑑賞しています。お弁当や料理が載った雑誌や本を読むのが好きで、昼休みには新聞をゆつくりと時間をかけて読みます。身体の痛みがあったりした時には、なかなか動く事が出来ない事もありましたが、最近では散歩にも必ず出かけ、小走りにホールの中を移動する姿も見られます。紀由さんも物静かで、椅子に座っていることが多いのですが、時折利用者さんの顔や首をなでたりして、ニヤツと笑っています。頑固な面もあり、一度決めたら譲れない：といくこともしばしばですが、紀由さんがそこにいるだけで空気が和み、心が温かくなります。これからは住まいも日中の場所も変わりますが、紀由さんならきつと新しい環境にもなじんで、仲間たちと仲良くやれるでしょう。いつまでも元気でいてください。

紀代美さんや紀由さん達が過ごしてきた間、障害を持つ方への制度や社会情勢は大きく変わりました。平成十八年、「障害者自立支援法」が施行され、つくしホームでも事業の変更が必要になりました。説明会が幾度となく開かれ、同時に牧之原市の「指定管理者制度」に向けての申請準備、手続きをすすめ、同年七月に指定を受けました。息つく暇も無く、新体系の中でホームほどの事業に、



そしてどのように、どのくらい時間をかけて移行すればよいのかを考え始めた矢先、同年十月からの転換を余儀なくされました。膨大な資料を何度も読み返しながら申請手続き、請求事務書類の作成に追われました。何度かの見直しの後、ようやく認可を得ることが出来ました。その間、利用者さんや保護者の方々への説明を行い、ようやく落ち着いたと思っただけに、もう師走となっていました。時代の海に放り出された小船が木の葉のように流されていた感じでした。そんな中、毎日を過ごす中でいつも念頭においていたのが利用者の方々なや保護者の方々が少しでも不安を感じないように配慮することでした。

が、生活介護事業という言葉が浸透するのには、しばらく時間がかかりました。そして、利用者さんからよく聞かれたのが、「つくしホームは無くなってしまうの?」、「私は法律が変わったらここに通えなくなるの?」という声でした。そのたび、「そんなことはないですよ」と繰り返し説明しましたが、特につくしの家に通い始めてから長い年月を過ごしてきた人達は、幾度となくこの思いを持ち続けてきたであろうと思います。福祉という概念がまだまだ浸透していなかった時代から、財政的にも決して恵まれず、周囲の理解も深まっていない中で、いろんな場所で障害をもつ人々への支援の場が造られるようになりましたが、つくしもそのひとつでした。

当時から、私達には想像も出来ないような困難や苦労を重ねながら支えてこられたご家族・保護者の方々が「これまでやってきて良かったな」と思ってもらえるような場所であるために、日々の積み重ね、ここで培われる人間関係を大切にしたいと思っています。昨日、そして今日があり、平穩に過ごす事が当たり前ではないと思われ知られる今、もう一度思いを新たに歩みを進めたいと思っています。

湊太の成長を見守って 飯野由紀奈

湊太は新生児仮死で産まれました。幸い十日程で退院することができました。産まれた時から体格が良く、寝返りや歩行など運動機能の発達は人より早かったのですが、2才を過ぎて3才を過ぎて言葉が出ず、こちらの言っている事も理解できていない様でした。その頃はお友達におもちやを投げつけたり顔を鷲掴みにしたり、出先では手を離せばどこかへ行ってしまおうし、動きが速いので常に追いかけてこでした。

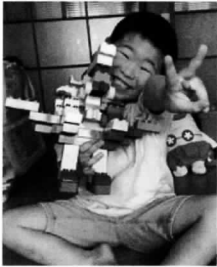
0才児から保育園に通っていましたが、年少々から月2回の親子教室、年少から毎日療育に通うようになりました。療育に通うようになった4才からめきめきと成長を見せ、言葉も沢山出るようになりました。それに伴い少しずつ色々なことを理解できるようになりました。年中に上がるタイミングで静岡の実家へ引越したし、つくしの家にお世話になることになりました。つくしはアットホームで湊太は先生やお友達にもすぐに慣れました。

あんなに手の掛かった湊太がいつの間にか心も体も大きく成長し、お手伝いをしたり、妹や小さなお友達に優しく接したりする頼もしいお兄さんとなりました。得意な事は、ブ

ロックや工作です。私にはとても作れない物をさささつと作り上げ、こちらを驚かせることが良くあります。苦手だった言葉も少しずつ覚え、今ではしりとりが好きになりました。

湊太の今の課題は、お友達と盛り上がり過ぎてコントロールが効かなくなってしまう事です。1年程前から出ている吃音も良くなったり悪くなったりで心配です。

これまでも転園する度に行き先を悩み決断してきましたが、今年は今長さんになり、進学先を決めるという大きな決断をしなくてはならない時期が近づいてきました。療育に通う事を決める時に、初めは少し抵抗を感じましたが、今の湊太の成長ぶりをみると、関わり方ですごく大切なんだな、私たちの決断は間違っていないかなと思えます。今後の進学先を決めるにあたって、親としては少し成長がゆっくりな湊太が心配で、支援級の方がいいかなと思ったり、いや普通級にチャレンジしてもやってみるんじゃないかなと思ったり、毎日毎日考えが変わります。これから学校の見学に行き、先生方のアドバイスを聞きながら、湊太に合う進学先を選べたら良いなと思っております。



(つくしの家保護者)

人との関わり 五関めぐ美

私はつくしホームに約五年間支援員として在籍させていただき、離れてから一年が経とうとしています。今でも、私にとってはたくさんの思い出が詰まった、かけがえのない大切な場所です。

私が支援員の仕事を選んだ理由はとて単純でした。前職で接客業をしていた私は、知的障害のある学生への対応に困ってしまったことがありました。その経験から「障害がある人ってどんな人?」、「どのように接したらいいの?」という疑問を抱き、その答えを探したかったのです。

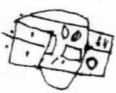
いざ仕事を始めて私が最初にしてきたことは、利用者さんのカルテを見て、懸命に覚えようとしていました。病名や症状など、利用者さんの表面的な所を重視して理解に繋げようとしていました。それに対して先輩職員から教えていただいたことは、利用者さんが好きな事や得意なこと、若い頃の話や思い出話など、内面的なことがほとんどでした。

このことから、私は「障害とは?」の答えを探そうとしていた当初の自分が恥ずかしくなりました。障害の有無に関わらず、その人を知る手段や接し方も特別なことは無いはずなのです。これは誰にでも言えること

ですが、『何かが出来る、出来ない』または『何かを持っている、いない』で人は判断できないということを、気づかせてもらいました。

心のバリアフリーという言葉聞きませんが、心のバリアを解消するのは自分自身だと思います。その為には、つくしホームで行われている地域交流などの人との関わりは、お互いの理解へと繋がりが、人の心を動かす大きな意味を持つのではないのでしょうか。少しでも人の心が豊かになり、その人がまた別の人へ発信したとしても…。豊かな心は連鎖していくのかもしれない。

つくしホームでの時間を思い出すと、私は利用者さんやご家族の皆様、園長先生をはじめ職員の皆様から、とても大事にしていたいたなと深く感じていきます。感謝の言葉や日常の挨拶、周りの人への気遣いや笑顔に溢れ、愛情いっぱい素敵な場所でした。私はそこで、「人は共に生きている」という実感と、その喜びを教えてもらいました。これからの人生で、まだまだ色んな人との出会いがあると思います。つくしホームを通して感じたこと、考えたことを大切にしたいと思っております。この日々を過ごしていきたいと思えます。



ありがとう

(つくしホーム旧職員)

ご報告

この五月一日、「平成」から「令和」へと新たな時代を迎え一年が経ちました。そして、それに伴う様々な儀式や行事も行われてきました。新しく始まった時代に希望を持ち、歩み始めたこの一年でしたが、年が明けた頃から新型コロナウイルスの感染がはじまり、数か月後には世界中に広がっていきました。日本でも急速に感染者が増え、ニュースでは新たな感染者、そして亡くなられた方々の人数が日々増加していく様子などが画面に映し出されています。今年、東京で開催される予定だったオリンピックが延期となり、様々な行事やイベントの縮小や中止、学校の休校、保育園や幼稚園の家庭での保育の協力要請や休園。ゴールデンウィークにも外出の制限や商業施設、観光施設の閉鎖もおこなわれました。そして、全国の都道府県に「緊急事態宣言」が出されました。以前では考えられなかったこと、当たり前のようであった日常、人と人との距離…、不安な毎日ですが、一日も早い終息の兆しが見えることを祈らずにはいられません。

このような状況の中、つくしの家は、四月に二歳から四歳までの九人の新しいお友達を迎え、十四歳までの三十四人のお友達と親子でのごま教室のお友達でスタートしました。つくしホームには、吉田特別支

援学校の高等部を卒業して入園してくれた一人が加わり十八歳から七十二歳までの方二十五人で一年がスタートしました。隣り合う二つの園舎からにぎやかな声が聞こえています。二つの園とも、何とか通常どおりに開園できていますが、利用する皆さんも職員も毎朝の検温をおこなったり、マスクの着用や手洗い、建物内の消毒も毎日おこなってきました。日中熱が出たり体調がすぐれない時には、保護者の方に連絡させていただきお迎えや通院、静養などの対応も協力いただいています。みんな元気をつけながら一日一日を送っていきたいと思います。

相田みつをさんの詩がふつと浮かんできました。

道

長い人生にはなあ
どんなに避けようとしても
どうしても通らなければ
ならぬ道
というものがあるんだな
そんなときはその道を
黙って歩くことだな
愚痴や弱音を吐かないでな
黙って歩くんだよ
ただ黙って
涙なんか見せちゃダメだぜ
そしてなあ
その時なんだよ
人間としてのいのちの
根がふかくなるのは

令和元年度 心身障害児通園施設つくしの家

後援会 決算報告書

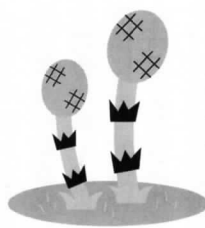
収入金額	2,493,001 円
支出金額	423,266 円
差引金額	2,069,735 円

収入の部

科目	金額	説明
1 寄附金収入	2,492,906	266 口
2 雑収入	95	預金利子
合計	2,493,001	

支出の部

科目	金額	説明
1 事業費支出	423,266	
(1) 一般物品費	9,594	事務用品代
(2) 印刷製本費	159,704	たより102号、103号
(3) 役務費	251,412	払込料金、たより発送代
(4) 雑費	2,556	残高証明手数料
2 繰入金支出	0	
(1) 本部会計繰入金支出	0	
合計	423,266	



昼休み、つくしの家のホールに出てみました。西側の畳のコーナーと二つの部屋に分かれてお昼寝の時間です。新しく入ったお友達の小さな寝顔も見えます。先生にトントンしてもらいながらようやく眠ったようです。今日の午前中、ぎんが組さんは触覚遊び、にじ組さんは園庭遊びでした。当たり前の毎日に一日も早く戻れることを願いながらみんな歩いて行きたいと思えます。

取扱金融機関のご案内

三菱UFJ銀行静岡支店 普通 4254072
口座名 つくしの家後援会 (以下同じ)
静岡銀行相良支店 普通 145949
島田掛川信用金庫相良支店 (旧島田信用金庫) 普通 134511
郵便振替 00820-5-57983
口座名 心身障害児通園施設 つくしの家後援会

令和元年度の後援会決算を感謝をもって報告させていただきます。梅雨の時期を迎えます。皆様のご健康とご自愛を心よりお祈り申し上げます。報告とさせていただきます。

つばき

◆つくしの家のあゆみ

十一月 ◎市の発達支援セミナーとして市内の保育園、幼稚園、子ども園の先生方が来園し、クラスごとの活動を見学し、研修会を行いました。◎牧之原市赤十字奉仕団相良分団の皆様が慰問に来て下さいました。◎日産労連様からクリスマスチャリティー公演のプレゼント。劇団四季によるミュージカル「はだかの王様」にご招待をいただき、みんなで رفتてきました。

十二月 ◎三日〜九日まで「障害者週間」、子ども達が手作りした来年のカレンダーをお世話になった皆様に届けました。◎相良保育園の子ども達からクリスマス献金をいただきました。◎伊藤園様より工場祭の収益をご寄付いただきました。◎二十五日はつくしのクリスマス会。劇や歌を発表しました。昨年に続き、結婚式場うおともの社長様がサンタさんで登場、プレゼントをいただきました。

一月 ◎牧之原市により、園舎の玄関横と園庭側の大きな松の枝を剪定していただきました。◎みんなで「お餅つき&とん汁パーティー」を行いました。楽しかったね。◎牧之原小学校の交流集會に代表で参加、ア

ルミ缶回収の収益で今年もおもちゃをプレゼントして下さいました。

二月 ◎三日に豆まきをしました。こわい青鬼さんが登場！お菓子もいっぱい拾ってとつてもにぎやかな会になりました。◎市により、防犯カメラを設置していただきました。◎今年度も「カーブス牧之原相良」様より、チャリティーイベントとして、たくさんのお菓子をいただきました。◎市内のパチンコ店「パオ牧之原店」様より、お菓子をいただきました。◎保護者学習会で年度の反省会を行いました。◎市社会福祉大会で藤野倫子先生と半田智香先生が表彰されました。

三月 ◎保護者会からのご寄付でもちや3点を購入させて頂きました。◎卒園を迎え、新しい道に立つ六人のお友達、それぞれの道で頑張つて下さいね。◎今年度もたくさんのお応援をいただいた皆様に心より感謝いたします。

四月 ◎新しい九人のお友達と、内藤秀先生を迎え、新年度がにぎやかにスタートしました。◎厚生労働省や市の社会福祉課を通して、マスクをいただきました。

一日も早くコロナの感染が収まりますように…。



◆つくしホームから

11月 ☆静岡県障害者スポーツ協会主催のスポーツレクレーション指導を受講。明るく優しい指導員さんがボウリングとポッチャを教えてくださいました。☆民生委員さんとの年度最後の散歩。絶好の散歩日和で、話も弾みました。☆萩間小学校4年生との交流。2回目ということで、お互いにリラックした表情で合唱を聴いたり手作りゲームを楽しみました。☆日赤奉仕団の皆様から洗剤やタオルをいただきました。☆市内の大橋利奈子さんが結成した「シュシュ」の皆様がコンサートを開いてくれました。つくしの卒園児の矢野くんもピアノを演奏、素敵な演奏にみんなうっとり。☆牧之原市内施設交流会に参加。「グリーンシントラスミュージック」様の楽しい演奏を聴き、屋外でパン食競争を楽しみました。☆保護者の皆様による愛情いっぱいのお食事会。☆日産労連様よりクリスマスチャリティー公演にご招待。

劇団四季による「はだかの王様」を観劇しました。華やかな舞台と素敵な歌声にみんな感激。☆せせらぎグループが小堤山公園に出掛け、思い切り運動しました。☆新しい仲間、岡村なのかさん入園。

12月 ☆株式会社伊藤園様よりご寄付をいただきました。利用者さんの為に大切に使用させていただきます。☆みんなで飾りつけをして、保護者

の皆さんと楽しいクリスマス会を開くことができました。

1月 ☆今年の抱負を書初めにしたためました。☆つばきグループがフルーツたつぷりの「フルーチェ」作り。☆つくしの家「にし組」さんが、可愛いダンスを見せてくれました。優しい気持ちになれる素敵な時間でした。☆堂園美咲さんが成人式を迎えました。

2月 ☆「豆まき」では、色んなパントをはいて、みんなで鬼のパントを踊りました。☆せせらぎグループが「具だくさんロールサンド」作り。☆カーブス牧之原相良店様よりフードドライブ事業に寄せられたたくさんのお菓子をいただきました。

3月 ☆萩間小学校の皆さんよりアルミ缶回収の収益とツルコ桜の鉢植えをいただきました。

編集後記

市内小学校との交流会、民生委員さんとの散歩、ボランティアさんや実習生の受け入れ等、様々な行事や中止・延期となっています。地域の皆さんを含め、いろんな方が訪れることが当たり前でしたが、様々な活動も自粛が続く中、外に出てゆく機会さえ失われつつありますが、一日も早く規制という扉が開かれることを願っています。